

PROGRAM

マンシーニ
『ティファニーで朝食を』より ムーン・リバー

チャップリン
『ライムライト』より エターナリー
『モダン・タイムス』より スマイル

ローゼンマン
『エデンの東』より テーマ曲

モリコーネ
『ニュー・シネマ・パラダイス』より
愛のテーマ
『海の上のピアニスト』より
愛を奏でて

ギャニオン
『優しい時間』より 明日

ラヴランド
ユー・レイズ・ミー・アップ

バッハ
G線上のアリア

サン＝サーンス
白鳥

ラフマニノフ
ヴォカリーズ op.34-14

バラティス
シチリアーノ

メンデルスゾーン
無言歌 op.109

マスカーニ
歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より
“間奏曲”

ポッパー
ハンガリー狂詩曲 op.68

ほか (順不同)

2017 3.4 (土) 7:00pm 開演
(6:15pm 開場)

ザ・シンフォニーホール 主催：カノン・ミュージック / ザ・シンフォニーホール

S席 3,000円 A席 2,000円 プレミアムシート 4,000円(税込) [S席+スパークリングワイン1杯(開場・休憩時に2Fカフェにてご利用可能)]

ご予約・お問合せ

■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00~18:00 火曜定休) <http://www.symphonyhall.jp>

■ プレイガイド

■ e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonyhall/> (パソコン・携帯) ■ チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:306-179]

■ ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード:56723] 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00~20:00)

想
い
出
が
い
っ
ぱ
い



荒庸子

チェロ・リサイタル 2017

『ピアノ』山田武彦

珠玉の
シネマ名曲

SELECTION

Vol.3



© All Rights Reserved

発売日 2016年10月1日(土)10:00~
[Sinfonia会員先行 9月22日(木・祝)]

※未就学児のご入場は御遠慮いただいております。
※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が
変更になる場合がございます。予めご了承ください。

思い出がいっぱい

珠玉のシネマ名曲



荒庸子 チェロ・リサイタル 2017 SELECTION Vol.3

チェロの魅力は何といてもその「音」。弦楽器の中でも最も人の声に近いといわれるチェロの音色は、優しく心に語りかけます。この魅力的な音色で人気チェリスト・荒庸子が歌い上げるのは『ティファニーで朝食を』『エデンの東』『海の上のピアニスト』など、名作映画を彩る美しく心に響くテーマ音楽。その物語の世界観や名シーンはもちろん、その作品を観た時のことや一緒に観た人との思い出がふっと蘇る音楽はまるで魔法のよう。

そして今回は『優しい時間』のテーマなどテレビドラマの楽曲も取り上げます。このリサイタルならではのクラシックを盛り込んだアレンジやチェロで奏でられるクラシックの小品も聴き逃せません。



[チェロ] 荒庸子

桐朋学園女子高等学校音楽科、同大学を経て、1990年ラトガース大学音楽科卒業。90年グラハム・シュタール・コンクール入賞。1992年ジュリアード音楽院修士課程修了。1993年蓼科高原音楽祭賞受賞。国内及びニューヨーク カーネギーホール、ロンドン セント・ジョーンズ・スミス・スクエアなどにてリサイタルを開催。その他、神奈川フィルとの共演、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団、宮崎国際音楽祭など国内外の多数の演奏会に出演している。2010年10月韓国のソナム市交響楽団と共演。また東京フィルハーモニー交響楽団をはじめ国内主要オーケストラにて客演首席としても活躍している。CDアルバム「思い出の映画館～太陽がいっぱい～」、「Fantasiestucke」をリリース。「アリオソ・ピアノ・トリオ」、「青薔薇海賊団」、ハーブとのユニット、「Duo Champagne」のメンバー。洗足学園音楽大学准教授・弦楽器コース統括責任者。
オフィシャルサイト <http://www.yokoara.com>



[ピアノ] 山田武彦

東京藝術大学大学院修了、バリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科首席卒。数多くの演奏者と共演、ソリストのパートナーとして常に絶大な信頼を得ている。現在洗足学園音楽大学教授・ピアノコース統括責任者、ピアノ&作曲マスタークラス・チーフ。楽曲分析、和声法、分析演奏法、伴奏法などの講座を担当。全日本ピアノ指導者協会正会員、日本ピアノ教育連盟会員、日本ソルフェージュ研究協議会理事。

<映画と名曲>

マンシーニ：『ティファニーで朝食を』より ムーン・リバー

ニューヨークを舞台に自由奔放に生きる女性の姿を描いた『ティファニーで朝食を』。小悪魔的な主人公をオードリー・ヘップバーンが演じました。早朝、ティファニーのウィンドーを眺めながらクロワッサンをかじるシーンがあまりにも有名。ヘンリー・マンシーニの美しくモダンな音楽が映画に見事にマッチしています。中でも印象的なのはオードリー自身が歌う「ムーン・リバー」。映画史に残る名曲です。

チャップリン：『ライムライト』より エターナリー

かつてイギリスと謳われながら中年を過ぎ落ちぶれてしまった道化師と、若く美しいバレリーナ。喜劇王・チャップリン後期の傑作であるトーキー作品。生きる意味、欲望…哲学的で重みのある名言がたくさん登場します。「ライムライト」とは電灯が普及する前の舞台照明器具で、「名声」を表す言葉でもあります。あまりにも美しいテーマ曲が胸を締め付けます。

チャップリン：『モダン・タイムス』より スマイル

資本主義において労働者の人間としての尊厳が失われる世情の中、幸福の意味をシニカルな笑いをもって問いかける名画『モダン・タイムス』。ラストシーンで流れる「スマイル」は、美しく切ない旋律に乗せて、笑顔でさえいればきっと明日は見えてくる、そんなメッセージを届けてくれます。後に歌詞がつけられ、今もなお多くのアーティストにカバーされています。

ローゼンマン：『エデンの東』より テーマ曲

青春の象徴とも言える名優ジェームズ・ディーン演じる、青年キャルの家族への愛憎が描かれた物語。孤独、不満、嫉妬、屈折した愛情…。怒りよりも悲しみ、戸惑いに似たナイーブな青年期の感情に溶け込むテーマ曲のメロディが印象的。

モリコーネ：『ニュー・シネマ・パラダイス』より 愛のテーマ

舞台はイタリア・シチリア。少年と映写技師が映画を通して心通わせる様子を、感動的な音楽と繊細な心理描写で描き出す至高の名作。時代を超えて愛される愛の物語に美しい「愛のテーマ」曲が感動的に響きます。

モリコーネ：『海の上のピアニスト』より 愛を奏でて

船の上で生を受け、生涯一度も陸に上がることのなかった天才ピアニスト1900。限られた世界で生きた男性が、88の限られた鍵盤で紡ぎ出す音楽は想像を絶するほど美しく、たった一度の恋に落ちた瞬間に即興で演奏される「愛を奏でて」は甘く切なく聴く人を魅了します。